



\仲間を増やそう!!/  
スポーツ少年団  
「広報活動ガイド」

---



「一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを！」の願いのもと、  
1962(昭和37)年6月に創設された日本スポーツ少年団。  
創設当時は22団、753人の団員という小さな団体でしたが、  
いまやその数は約3万4000団、そして団員は約74万人、  
指導者は約20万人に増加しました。

そんななか関係者の皆さんは、うちの少年団の活動状況を発信したい！

もっと多くの子どもたちに参加してほしい！

と考えているのではないのでしょうか？

自分たちの少年団を知ってもらい、どんどん参加してもらうためには、

何を、どのようにしたらいいのか——

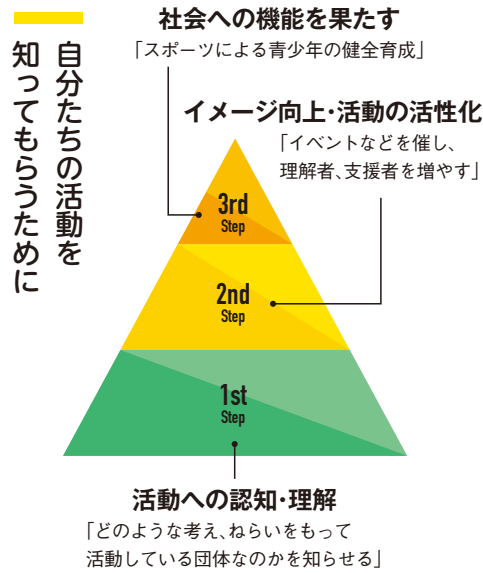
ここからスポーツ少年団の広報活動について解説していきます。

## 目次

1. 広報とは？ .....	2
2. スタート ～まず、できることから始めよう～ .....	3
3. チラシ・ポスター .....	4
4. インターネット①ホームページ .....	6
5. インターネット②Facebook .....	8
6. マスコミを活用 .....	12
7. まとめ .....	17

# 1 広報とは？

広報とは、広く報道すること  
 情報を発信して、活動内容を理解してもらおう



自分たちの活動を  
 知ってもらうために

スポーツ少年団は、地域に根ざし、青年の健全育成を通じて社会に貢献していく重要な役割と責任を担っています。その活動を社会的に認知してもらい、高い評価を受けるためには、まず多くの人たちに、自分たちがどのような団体なのかを知ってもらう必要があります。そのために重要になってくるのが「広報」という活動です。

多くの人たちの理解、支援、協力を得るために、自分たちの団体の目指す方向性、どのような活動状況なのかを、いろいろな方法を用いて伝えていくのですが、常に誠意をもって、相手との良好な対話の関係をづくり、繰り返し行うことが大切です。

「広報」とは、広く報道すること

### スポーツ少年団は

- スポーツによる青少年の健全育成が目的で
- 全国で約60種目のさまざまなスポーツ活動を行っています
- 小学1年生以上ならだれでも参加できて
- スポーツだけでなく、レクリエーションや野外活動も楽しめます！



スポーツ少年団って何？  
 どんな活動をしているの？



広報と広告の違いを  
 知っておく

広報は、英語に訳すと「Public Relations」(パブリック・リレーションズ=PR)。新聞の広告やテレビのCMのように、費用を負担して情報を発信するのではなく、伝えたい素材を提供して、それぞれの媒体が判断した結果、発信してくれるものです。

つまり、「広告」はお金を支払えば情報発信できますが、「広報」(PR)の場合は、お金がかからない反面、その情報に報道価値がなければ発信してもらえません。

報道価値を高め、興味がわく内容を提供できるかどうか、広報の重要なポイントです。オリジナルティのある情報、客観的に判断して信頼性のある内容を提供できれば、多くの媒体で取り上げてくれるチャンスは大いにできます。

## 広報と広告の違い

広報

広告

無償	費用	有償
マスコミの判断	掲載基準	スペースを購入
マスコミの独自の記事	内容	自由に決定
客観的な情報として信頼性が高い	信頼性	広告としての判断

# まず、できることから始めよう 地域に根ざした活動が大事！



## 地域の人たちと触れあう

スポーツ少年団の活動は、地域の人たちの協力があつてはじめて成り立ちます。地域の一人であることを頭に入れて、積極的に触れあうことがとても大切です。

たとえば、団員全員がユニフォームを着て、地域のお祭りに参加してみても？ 手分けをして、会場全体を見回ったり、救急係をお手伝いしたり……。協力する姿こそが生きた広報活動なのです。

ユニフォーム姿で活動することは、団体の絶好のアピールになり、地域で認められれば、活動の理解者も増え、その後の活動もスムーズに進めることができます。

こんなイベントはありませんか？

- 地域のお祭り
  - 防災訓練
  - 募金活動
  - バザー
  - 幼稚園・保育園・学校の行事
- ……など  
自分の単位団に合ったやり方でできそうなことから！

## 団独自の企画を立てて 地域の人たちと行事を実施

団独自の企画を立てて、地域の人たちの参加を募るのもいいアイデアです。参加した子どもたち、その保護者の人たちが楽しい体験ができれば、団の活動を知るきっかけになり、「自分も仲間に入りたい」「今後、継続的に参加したい」と思うようになるかもしれません。楽しい体験は、文字で書かれた広報資料よりも、説得力のあるものになるはずですよ。

その行事を成功させ、入団希望者が出るようにするためには、可能な限り周知な準備をし、実行に移しましょう。たとえば、  
① 団員と参加者のネームプレートをつくる。  
② 写真を撮って参加者に送る。  
③ 行事の様子を行政機関や地方新聞社などに発信する。  
このような一つ一つの活動が、広く報道すること「広報」につながっていくのです。



# 広報道具のチラシ・ポスターを 作成、活用する



## 媒体を選んで 効果的に広報する

チラシやポスターなどは、自分たちの仲間を増やし、活動を広く伝えるための大切な道具の一つです。この道具を上手に使うことで、広報効果を上げましょう。

まず考えなければいけないことは、広報する対象です。だれに向かって報じるのかをはっきりさせて、情報の内容や対象に適している媒体を選ぶようにします。

## チラシ

チラシは、行事のお知らせや入団者募集などをするとき活用します。行事や入団説明会の日時、場所などを、わかりやすく、見やすくレイアウトをして、問い合わせ先も必ず入れておきましょう。配布するとき

## 対象別のおすすめ掲示・配布先

◎…有効 ○…ふつう △…ほどほど

配布先	対象	未就学児	小中学生	高校・大学 専門学校生	主婦・女性	20・30代	40・50代
公共施設(役所ほか)					△	△	△
体育館、公民館、図書館など		○	○	○	○	○	○
幼稚園・保育園(保護者)		◎					
小中学校(保護者)			◎				
高校・大学・専門学校				◎			
各種地域団体					○	○	○
駅、バスターミナル					△	△	△
郵便局・金融機関					△	△	△
スポーツ用品店				○		○	○
小売店・スーパー					◎	○	○
コンビニ				◎	○	◎	
飲食店						○	○
新聞折り込み					○	○	○

参考：日本体育協会発行「クラブのらくらく広報」

## Advice!



- 1 手づくり感は共感を呼ぶこと間違いなし。イラストや文字を工夫して、注目度を高めるようにする。
- 2 手渡すとき、活動の目的などをわかりやすく説明する。
- 3 興味をもった人がすぐに連絡できるように、団の連絡先、責任者名を記入する。
- 4 手づくりの「名刺」を作って、携帯するのもグッド。口コミ時に渡すのもいいかも。



4 インターネット① ホームページ

# いまや情報収集に欠かせないツール インターネットを活用しない手はない

インターネット上に  
情報を載せることが先決

いまやパソコンがなくても携帯電話からウェブサイトを（インターネット上のページ）を見て、情報を得ることが出来る時代です。

ひと昔前まではインターネット上の情報発信のメインはホームページ（HP）でしたが、いまではだれでも無料で作成でき、お互いにコミュニケーションがとれるサイトなど、さまざまな方法があります（下の表を参照してください）。

まずは、どんな形でもかまいません。世界中につながるインターネット上に、自分の団の情報を公開することから始めましょう。情報があればこそ、見つけてもらえるのです。



## インターネットの種類と特性

種類	ホームページ	ブログ	メール
特性	● 団PRはもちろん、練習日程、試合結果、掲示板など、自由な項目を、自由なレイアウトで作ることができる。	● 個人やグループが綴る日記などを掲載（アメーバブログなどが有名）。 ● だれでも簡単に無料で作成ができる。	● メールを送信するだけで簡単。 ● 転送が容易なため、情報の拡散も早い。 ● メールマガジン、メーリングリストなどを利用すれば、一括送信もできる。
欠点	● 無料で作れるHPも増えたが、パソコン初心者にはやや難しい。 ● 作ったあとの更新に手間がかかり、複数人で管理・運用しにくい。	● 日付順に並ぶので、過去の記事が埋もれがち。 ● 同じブログサービスに登録しないと、閲覧者がコメントを書き込めないことも。	● 相手のメールアドレスがわからなければ、送信できない。 ● 送りっぱなしで意外と読んでもらえないことも。

**Point!** 検索サイトで上位に出てくるようにするには、SEO対策という裏技を使う！

**Point!** 日記にタグ付け（項目分け）すると、記事が探しやすい！

種類	SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)		
	Facebook(フェイスブック)	twitter(ツイッター)	mixi(ミクシィ)
特性	● 世界で8億人以上のユーザーをもつ世界最大のSNS。 ● 実名登録が義務のため、不適切なコメントが少なめ。 ● Facebookページという個人以外のページ作成が可能。	● 140文字以内の短文を手軽に投稿できる。 ● Facebookのように相手の許可を得ることなく、「フォロー」した人のメッセージを一方向的に閲覧できる。	● 日本国内で昔から人気。 ● 実名登録の義務はなく、ニックネームでやりとり可。 ● 多種多様なコミュニティーが存在し、活発な情報交換がされている。
欠点	● 日付順に並ぶので、過去の記事が埋もれがち。 ● 「いいね！」を押してもらい定期的に読んでもらうには、工夫が必要。	● 検索機能が、数日間以内のツイートからしか検索されない。	● 検索エンジンからのアクセスができない。 ● mixiに登録しないと、mixi内の記事が閲覧できない。



ここに載せてもらおう

日本体育協会ホームページ  
<http://www.japan-sports.or.jp/>  
 トップページ→スポーツ少年団→  
 全国のスポーツ少年団→  
 日本地図より都道府県を選択  
 ※掲載の申し込みは、トップページ→リンク申込のページより必要事項を入力してください。

情報を載せた「住所」を  
日体協に掲載してもらおう

でき上がったサイトには、それぞれURLとよばれる「住所」がつけます。そのURLを、関連したHPでリンク（URLを掲載）してもらいましょう。リンクしてもらったページを増やすことで、人目につく可能性はさらに高まります。たまたま見つけて、団に興味をもってくれる人もいられるかもしれませんよ！

まずは、日本体育協会HPにあるスポーツ少年団のページにリンクしてもらいましょう。都道府県や市区町村のHPがあれば、そこにもお願いしてみます。少年団でなくとも、近くの地域で、同じ競技を愛好している人たちのHPをあたって見てもいいですね。

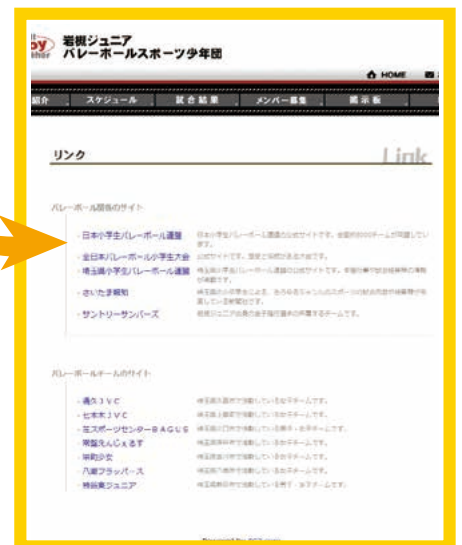
## 〈ホームページ作成例〉

HPでは、トップページと呼ばれるウェブの「顔」にあたるページから、さまざまな項目を並べてサブページを作ります。

パソコンの知識があれば、団の年表、過去の試合結果といった複雑なページも作れますが、パソコンがあまり得意でなくても、簡単なページであればそれなりに作ることができます。



### ▼トップページ



### ホームページを作成してみたい

#### ●お金をかけずに自身で作成

まずインターネットの検索サイトで「ホームページ 作成」などで検索してみてください。良さそうなものを選び、手順に従って進めていけば、完成します。

#### ●ホームページ作成業者に頼む

初期費用は数万円くらいからですが、ランニングコスト面も考慮しなくてはなりません。



5 インターネット② Facebook

# 日本でも広がりをもせる Facebook(フェイスブック)を活用する

## 個人アカウントを登録後 Facebookページを作る

いま注目を浴びているSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)。人と人とのつながりを促進・サポートするコミュニティー型のウェブサイトです。ここではTwitter(ツイッター)と並んで広がりをもせるFacebook(フェイスブック)以下FB)を活用してみましょう。

まずは自分の個人アカウント(使用权)を取得します。パソコンやスマートフォン、携帯電話でも可能です。姓名(※ローマ字、実名で)、メールアドレス、性別、生年月日、好きなパスワードを入力すれば簡単に登録できるので、ここでは手順を省きます。

次に、団の「Facebookページ(以下FBページ)」を作る具体的な手順を紹介します。  
※提供元によって仕様が変更することがあります。

Facebook ページとは？

企業や団体などが、FBで情報発信するために開設するものです。サービスは無料。FBでアカウントを取得した個人が「管理人」となり、ウォール(壁)と呼ばれる掲示板に、写真、動画、ウェブサイトへのリンクなどを投稿したり、意見を募ったり、イベントの告知や参加申込を受け付けるといったことが簡単にできます。また、FBに登録していない人でも閲覧できます。

### 〈Facebookページの作成手順〉

1	ページ名	新町パワーマリオンズ(ソフトボール少年団)
2	希望URL (赤字部分)	https://www.facebook.com/ s.powermarions
3	簡単な説明 (プロフィール写真 下に表示される)	高崎市の小学生の女子ソフトボールチームです。
4	リンクさせたいURL (あれば)	http://ameblo.jp/k-softman/(ブログ) http://shinmachi-sc.org/club02.html(ホームページ)
5	プロフィール画像	(表示サイズは正方形。「サムネイルを編集」で位置の修正ができる)
6	カバー画像	(表示サイズは横長の長方形。アップロード時に位置の修正ができる)
7	詳細 (基本情報の「説明」にあたる部分)	群馬県高崎市新町で活動している小学生の女子ソフトボールチームです。新町第二小学校の校庭で毎週末(土・日)に練習しています。  現在、藤岡・玉村・倉賀野からも団員が集まっています。チームポリシーは「楽しもう!!」。一緒にグラウンドで遊びましょう!  中学校の体育の授業でもソフトボールが始まるので、興味のある人は、ぜひ体験に来てください。

### 1. 情報と写真を用意する

FBページ作成途中や作成後に必要な文章と写真2枚を用意しておく。左の表を参考にして、あらかじめ準備しておこう。

Point!

- 1 団名の後ろに(競技名)を入れたり、「少年団」と入れておくと検索効果UP!
- 2 使用できる文字は、英数字(A~Z、0~9)とピリオド(.)のみ
- 3 155字以内で簡潔・明瞭な説明を!
- 4 ほかにHP、ブログなどがあれば
- 5 チームロゴやユニフォームの一部分など
- 6 練習風景や集合写真などが多い

### 3. 基本データを入力

説明欄に、簡単な説明を入力(155字まで)。その下に、団のHPやブログページがある場合はURLを入力。次に、当FBページのURLの一部となる英数字を入力。「はい・いいえ」を選び、「情報を保存」をクリック。

### 2. カテゴリとページ名を入力

以下のURLからFBページ作成画面を開き、カテゴリ「会社名または団体名」を選択。次のカテゴリ選択では「地域団体」を選び、下段にページ名として団の名称を入力。規約同意にチェックを入れて「スタート」をクリック。

〈Facebookページ作成ページ〉

<https://www.facebook.com/pages/create.php>



## 5.カバー写真をアップ

あっという間にページが完成。次にページの背景に表示させるカバー写真をアップ。「カバーを追加」→「写真をアップロード…」を選択し、パソコンまたは携帯電話内の画像を選ぶ。写真上でドラッグ(クリックしたままマウスを動かす)し、配置を決めたら「変更を保存」をクリック。さらにページらしくなる。



## 4.プロフィール写真をアップ

コンピューターからアップロードを選択、パソコンまたは携帯電話内の画像を選んで、「写真を保存」をクリック(スキップして後から設定も可)→「次へ」をクリック。「お気に入りに追加」、「より多くの人にリーチ(広告)」はここではスキップ。



## 7.より詳しい情報を登録

左上の「ページ情報」タブをクリックし、住所(活動場所)、詳細(活動場所、練習日、部員数、団PR文など。長文、改行も可)を入力。電話番号を掲載したくなければ、「電話番号なし」で設定しておく。



## 6.重要 投稿を制限する

初期設定では、世界中の誰もがこのFBページに投稿できる状態になっている。すぐに設定変更しよう。「Facebookページを編集」から「設定を編集」を選択。「投稿の設定」をクリックし、2項目ともチェックを外して「変更を保存」をクリック。



## 8.これでFacebookページ完成♪

右上の「Facebookページを見る」でトップページに戻ろう。プロフィール写真の下にある「基本データ」をクリックすると、左写真のような紹介文ができています。興味をもった人が連絡できるように、メールアドレス、電話番号などの掲載が可能なら、先ほどの「ページ情報」を編集しよう。

まずは「ファン数を増やす」の項目から、知人・友人を招待するなどして、なるべく多くの人に団のFBページの存在を知ってもらいましょう！



## 「いいね」の数を増やす

FBページがで上がったたら、団の活動などを投稿してみます。投稿を目にした人に、それに対して「コメント」を残してもらったり、「いいね！」や「シェア」を押して意思表示してもらったりすることで、さらにその友達のニュースフィード（情報収集ページ）にもこの投稿が掲載されます。

また、一つ一つの投稿だけでなく、あなたのFBページそのものに「いいね！」や「シェア」を押してもらったり、わざわざこのページを訪れてもらわなくても、その人たちのニュースフィードに、あなたのすべての投稿が掲載されていきます。こうやって情報が拡散され、コミュニケーションが広がっていくのです。

せっかくなのでこのページを有効活用するためにも、どんどん投稿しましょう。反対に、別の人のページやFBページを訪れて「コメント」や「いいね！」を残すのも、団の存在を知ってもらいたい機会になります。

「いいね！」とは…?

投稿(記事・写真・動画など)のそばに「いいね!」というボタンがあります。ボタンを押すだけで、その投稿に共感したことを意思表示できる手軽な機能です。ボタンを押した人数が表示され、押した人のリスト表示もできます。

## ＜記事や写真の投稿手順＞

### 1. 記事を入力

ページの上にある「何か書く……」から手軽に投稿できる。まずは「近況」の下にあるボックスに、記事を入力する(改行もできる)。



### 2. 「写真」をアップ

右隣にある「写真・動画」から、「写真/動画をアップロード」を選び、パソコン(または携帯電話)内の写真をアップロードする。



### 3. 投稿完了!

右下の「投稿」ボタンを押せば、あっという間に投稿が完了!

### Check!

間違えて載せてしまった情報を、一度削除して訂正しても、以前見てくれた人が訂正版を読んでもくれるとは限りません。投稿前に再チェックしましょう。

### Advice!

#### 複数の写真を載せたい場合は?

「写真・動画」から、「写真アルバムを作成」を選び、「+写真を追加」「無題のアルバム」にタイトルを入力、「このアルバムについて何か書く…」に記事を入力して、「写真を投稿」を押すと投稿できます。3枚以上で投稿しましょう。

## 団の関係者も管理者に加えて みんなで投稿することもできる

ホームページの場合、ページの情報追加・修正は、一人で管理することが多く、管理者に頼むため時間がかかることが多いものです。

FBページの場合、指導者、保護者など団の関係者がFBの個人アカウントをもっていたら、その人たちも投稿できる管理者として加えることができます。一人で運用するのが大変であれば、仲間にも手伝ってもらって、練習の様子、試合の感想など、みんなで投稿してもいいですね。

## 〈管理者の追加手順〉

### 1.

まずは、管理に加わってもらいたい人と自分(管理者)が「友達」になっておくと、登録がしやすい。

### 2.

「Facebookページを編集」から「管理者の役割を管理」を選択。



### 3.

追加したい友達の名前を入力。名前の下をクリックして、「コンテンツ作成者」を選択。保存をクリックしてパスワードを入力し、変更を確定すれば完了。



気になる投稿や共感できる情報に対しては、以下の3つのアクションを起こしましょう。

- ①「いいね！」ボタンを押す
- ②投稿に対してコメントを残す
- ③コメントを自分の友達にシェアする



## インターネットの 危険性と対策

世界に向けて情報を発信できるインターネットは、公開してはいけない情報をも世間に公開してしまう危険性もっています。

FBも安全性が保証されているわけではありません。実名でのやりとりの場合は少ないとはいえ、なかには「なりすまし人間」が発生するリスクがあったり、悪意なく投稿した記事について思いもよらない「言葉の暴力」を受けることもあります。

参加者や会員の顔写真や個人的な情報を、どこまで公開して差し支えないのか、団のなかで事前にルールを設定しておくことも大切なことです。

とはいえ、現状ではリスクやデメリットを超えてメリットのほうが大きい広報源です。情報漏洩に注意しながら、有効に活用しましょう。

## Advice!



### 公開すべきでない情報例

#### 1 個人情報

住所・電話番号・メールアドレスのほか、本人の許可なく名前や写真を公開したり、行動を書き込む行為。無意識に他人のプライバシーを漏らすことにつながります。

#### 2 不適切な発言

だれかを傷つける発言や、誤解を招くような不適切な情報。

#### 3 他人の著作物

自分以外の人々が作成した画像や写真、だれかの作成したレシピやニュース、歌詞など。

#### 4 守秘義務を伴う情報

団の会議で話しあった内容など、業務上・職務上でしか知り得ない情報。

身のまわりの  
マスコミを探そう

- 新聞  
(一般新聞の地方版、地方紙)
- 行政の広報誌
- タウン誌(※有料の場合もあり)
- 町内会の会報紙、回覧板
- 地方テレビ局のローカル番組
- ケーブルテレビの地元チャンネル
- FM地方局、地域有線放送……など



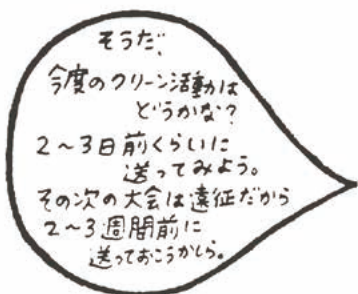
# スポーツ少年団の活動を マスコミを通して発信するためには

マスコミに  
取り上げてもらう方法は?

マスコミとは、新聞、テレビ、ラジオ、雑誌など、多くの対象者に向けて情報を発信する媒体です。どの媒体でも、自分たちの少年団の情報を取り上げてもらえれば、多くの人にその活動を知ってもらうことができます。活動の励みにもなり、周りの人にも自慢できます!

マスコミに取り上げてもらうには、まず発信する情報に話題性・公益性があつて、読者にアピールできる内容であること。自分たちが企画した大会やイベントを、目を引くキャッチコピーをつけて発信してみましょう。話題性があるものであれば、取り上げてもらえる確率が高くなります。

2つめは、マスコミ側との信頼関係・人間関係をつくること。常にマスコミ関係者と交流を重ね、関係を密にすることを心がけましょう。少年団の情報を送り、質の高いニュース素材を提供し続ける、そんな地道な活動があつてはじめて、ニュースとして取り上げてもらえます。



ニュースの価値ありますか?

Check!

- 1 一般社会人が興味をもちそうですか?
- 2 まだ発表・報道されていない情報ですか?
- 3 単なる宣伝ではありませんか?
- 4 法律や道義的問題には触れていませんか?
- 5 発表のタイミングは妥当ですか?

取り上げてもらえそうな  
記事を作るコツ

ニュースになりそうな素材を新聞社などのマスコミに提供し、マスコミの判断で記事してもらおう活動は、広報にとっても重要で、もし報道が実現したら、広報活動大成功です!

どのようにすれば取り上げてもらえるのか、ポイントを書き出してみましよう。



## 実例！ 少年団の活動を 新聞社に発信してみる

実際に、ニュースリリースを作成し、それを新聞社が取り上げ、掲載された例を紹介します。どのポイントが担当者の興味をひき、記事として価値があったのかを検証してみましょう。

まず、ニュースリリースの書き方のポイントをまとめておきます。



〇〇〇〇年〇月〇日

〇×△新聞社〇〇支局 スポーツご担当者様

### 新町地区スポーツ少年団が 駅伝大会 を行います

貴社、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。  
さて、新町地区スポーツ少年団では、毎年恒例の駅伝大会を催します。下記概要を送信させていただきますので、貴社の媒体でニュースとして取り上げていただきたく、お願い申し上げます。

《日 程》平成〇年〇月〇日(日) 午前8時～  
《会 場》新町小学校運動場

#### 《目的》

- 幅広い年齢層が一堂に会し、世代間の交流を図ります。
- 少し長い距離を走ってチャレンジ心を養います。

#### 《特徴》

- スポーツ少年団登録の5チームが参加。
- ユニフォームを着て走ります。
- 小学生40名、中・高・大学生15名が参加します。
- お父さん、お母さん世代も走ります。
- 終了後はみんなで豚汁を食べます。

#### 《セールスポイント》

- 運営は中高生リーダーが進めます。

《主催》新町地区スポーツ少年団

ぜひ、取材・報道をお願いいたします。取材が叶わない場合は、写真や記事提供をさせていただきますので、お気軽に下記までご連絡くださいませ。

《問い合わせ》新町地区スポーツ少年団事務局（担当：〇〇〇〇）

電話：090-0000-0000 FAX:0000-00-0000

Eメール：[ooooooo@ooo.ne.jp](mailto:ooooooo@ooo.ne.jp) ホームページ：<http://www.oooooo.ooo.ne.jp>

（地元根付いたユースボランティアの活躍が特徴的な団体です）

## ニュースリリースの 書き方のポイント

- 1 知らせたい情報を1つに絞る
- 2 内容を簡潔に表すタイトルをつける
- 3 内容は知らせたい事実だけを簡潔で明瞭にまとめ、できるだけ箇条書きにする
- 4 内容は6W2Hに沿って書く
- 5 専門用語はなるべく避ける（例：×母集団も走ります）
- 6 連絡先を入れておく
- 7 A4用紙1枚程度にまとめる

## Advice!



- 1 ニュースリリースに写真や図表もプラスして視覚的効果も
- 2 対応窓口(担当者)を忘れずに明記する

記者さんは忙しいので、取材に来られない場合もあります。そのときは記者さんの連絡先(メールアドレス)を聞いておいて、「事後、写真をお送りします」というのも手です

## 新聞報道の記事例

一般の人の関心事は、新聞記事として扱ってもらいやすいものです。公共性のあるタイムリーな事柄などは、積極的にニュースとしてリリースしましょう。きっといい新聞記事にしてくれるはずです。



**新潟・江南区**

**不法投棄しないで**

不法投棄をなくそうと酒屋地区で4日、クリーン作戦が行われた。写真。地元住民が参加し、高速道の側道や地域の公園などのごみを拾い集めた。

クリーン作戦は、磐越道の開通に伴い、側道などへの不法投棄が増えたことがきっかけ。地元酒屋町自治連合会が主催して、1999年に始まった。

この日は、地元の高齢者や両川スポーツ少年団などの約100人が班ごとに分かれて実施。高速道の側道では、スポーツのメンバー12人が空き缶やビールなどを拾い集め、ごみ袋はすぐいっしょにテレビやタイヤなどの粗大ごみもあった。

初めて参加した両川小3年、才須海心君(9)は「二人一人がごみを持ちかえるように心掛けてほしい」と話していた。

2013年8月8日付 新潟日報

地域のごみ拾いに単位団が参加したニュースです。

スポーツ少年団国際交流事業もニュースになります！

**83人が仲間に鍛錬誓う**  
村上でスポーツ少年団の入団式

村上地区スポーツ少年団。83人の児童・生徒が団の本年度入団式が10日、先鋒団員や指導者の歓迎で、村上体育館で行われ、団員として新たな一歩を踏み出した。少年団は旧村上市内の小学校に通う児童を中心に構成。こしから中学生を主体とした硬式野球の「村上リトルシニア」が新たに加わり、計293人が9競技団体の入団式では日本スポーツ少年団員を代表してミニバスケットボール少年団の大滝大輔君(前小3年)が「健康な体と心を養い、規則を守り、みんなと仲良くやっていきたい」と誓いの言葉を述べた。

写真。83人が仲間に加わった村上地区スポーツ少年団の入団式(10日、村上市)

ツ少年団員綱領を全員で唱和。新入団員が単上小学校に通う児童を中心に構成。こしから中学生を主体とした硬式野球の「村上リトルシニア」が新たに加わり、計293人が9競技団体の入団式では日本スポーツ少年団員を代表してミニバスケットボール少年団の大滝大輔君(前小3年)が「健康な体と心を養い、規則を守り、みんなと仲良くやっていきたい」と誓いの言葉を述べた。

2012年5月12日付 新潟日報

地域のスポーツ少年団が合同入団式を行う様子。

**独のスポーツ指導者7人**  
**三好で子どもと交流**

生徒に弓の構え方を教わるドイツのスポーツ指導者ら＝三好市の池田高校

ドイツで若者にスポーツを教える指導者らが5日、三好市池田町の学校を訪れ、子どもたちと交流した。

一行はドイツの小学校や地域のクラブで水泳、体操などを指導する10〜60代の男女7人で、3日から三好市に滞在している。池田高校では剣道やバスケットボールなどの部活動を見学。弓道部で弓の試射も体験した。池田小学校グラウンドでは地元スポーツ少年団の池田JFCと、サッカーのミニゲームを行った。

小学校などでバスケットボールを指導しているアナ・シュベチェさん(18)は「子どもたちが楽しそうなのが印象的。日本のように学校と地域クラブの協力関係を密にして、子どもの時間を有効活用できれば」と話した。

一行は、日本体育協会日本スポーツ少年団の「日独青少年指導者セミナー」で1日に来日。三好市では吉野川のラフティングや阿波人形浄瑠璃も楽しんだ。6日に香川県に移動し、13日に日本を離れる。

(佐藤陽香)

2014年11月6日付 徳島新聞



## 新聞報道の記事例



2014年11月17日付 房日新聞

運動適性テストが開催されたことを伝えていきます。



### Point!

- 1 コネは強力。知り合いがいなか探してみる(〇〇さんちのお父さんが新聞社にお勤めなど)
- 2 広告ではなく広報なので、記事に採用されない場合もあることも、頭に入れておく
- 3 取り上げてもらったら、担当記者にメールなどでお礼を伝える(関係をつなげておくため)

## フリーペーパーの記事例

新聞以外にも地域のメディアは様々あります。例えば、右は地域フリーペーパーに掲載していただいた事例です。このような取材を受け、紹介されることによって、一緒に活動する仲間が増えるきっかけになるはずです。



取材依頼を受けたら、前向きに検討しましょう。



2015年1月29日付 茨城新聞

指導者・保護者へ向けた講演会の記事です。



2014年9月号 vol.58  
日立ふれあい情報マガジン「ひたっち」

毎号スポーツ少年団を紹介するページを設けている「ひたっち」(飲食等のフリーペーパー)。編集部が取材し、無料で掲載して下さるそうです。

## スポーツ少年団の構成メンバー

指導者	スポーツ少年団の活動が、子どもたち一人ひとりの将来の大切な基盤づくりになることを認識して、ジュニア期の発育発達に応じた指導を行う
リーダー	指導者の方針に従って団員の気持ちを理解してグループをまとめ、目標に向かって前進させる
育成母集団	親・地域住民の組織で、子どもたちの精神面、財政面などの支援に加え、地域ぐるみでのスポーツ活動を目指す

# 広報活動でもっとも大切なこと それは人と人との協力&つながり

広報のいちばんの担い手は  
団員！

スポーツ少年団の広報活動を進めていくうえで、いちばんの役割を担わなければならないのは団員です。

少年団に入団してくる人たちの多くは、  
□コミの影響を受けていて、団員一人ひとりの言動が、少年団の評判を高めたり、イメージを悪くしたりします。

そこで大切になってくるのが、団員とともに、リーダー、指導者、育成母集団といったメンバーが、自分たちの団の理念や活動方針について正しく理解し、その情報を共有すること。そしてその情報を、外に向けて正確に提供することです。

少年団を構成しているメンバーが、それぞれの立場で相互の情報伝達を密にして、外に向けての広報活動をスムーズに行うことができれば、どんなPRよりも価値のあるものになります。

保護者の理解が  
大きな輪へとつながる

保護者は、子どもたちの元気な様子や、団の活動のなかで知ることが出来ます。子どもが楽しそうにイキイキしている姿は、保護者にとつて大きな喜びです。

「あんなに引込み思案だった子が、積極的に試合に参加したいと言っている」「スポーツよりもテレビゲームのほうが好きだったのに、どんどん活動的になっていく」

こんな声が聞こえるようになってきたら、広報活動のはじめの一步は成功です！



保護者へ、子どもたちの少年団での活動が伝わり、それが理解へとつながり、指導者やリーダーなど団の運営に携わる人々への信頼に結びついていきます。

あるときには、保護者参加型のイベントを企画して、一緒に体験してもらったり、大会後に催すパーティーの招待状を届けてりして、保護者との輪をどんどん大きくしていくことで、保護者の協力も得ることができるようになります。少年団内の相互理解と協力により、自然と外部への効果的な広報活動が生まれるのです。

一人ひとりが広報マン！ この自覚をもつことが何より大事です。



公益財団法人

日本体育協会

広報活動ガイド

発行日 平成27年5月21日

発行 公益財団法人日本体育協会 日本スポーツ少年団

問合せ先 公益財団法人日本体育協会 地域スポーツ推進部少年団課

〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1

Tel 03-3481-2222 <http://www.japan-sports.or.jp/>